

豊かな生き物を育む水田づくり



箱庭の里 奥嶋の集い

概要

- 近江八幡市島町は市の最北部に位置し、三方を山に囲われ、南東部に面して開けた農村地帯で、琵琶湖へ流入する一級河川長命寺川（ちょうめいじがわ）に隣接した約40haの水田地帯。
- 当町の基幹排水路は一級河川長命寺川に直接流入しており、近年のゲリラ豪雨や大型台風による想定外の雨水被害も出始めている。
- 土壌は粘質土で、水はけが悪く、暗渠排水の効果が出ない農地も一部点在し、転作の麦作には適さない。
- 近年（20年位）、イノシシによる農作物の被害が増加し、土地改良未整備地は耕作放棄が出始めている。
- 三方を山に囲われていることから風通しは悪く、水稻のいもち病の発生が多い。

位置図 (近江八幡市島町)



位置図 (近江八幡市島町)





位置図

ビオトープ池

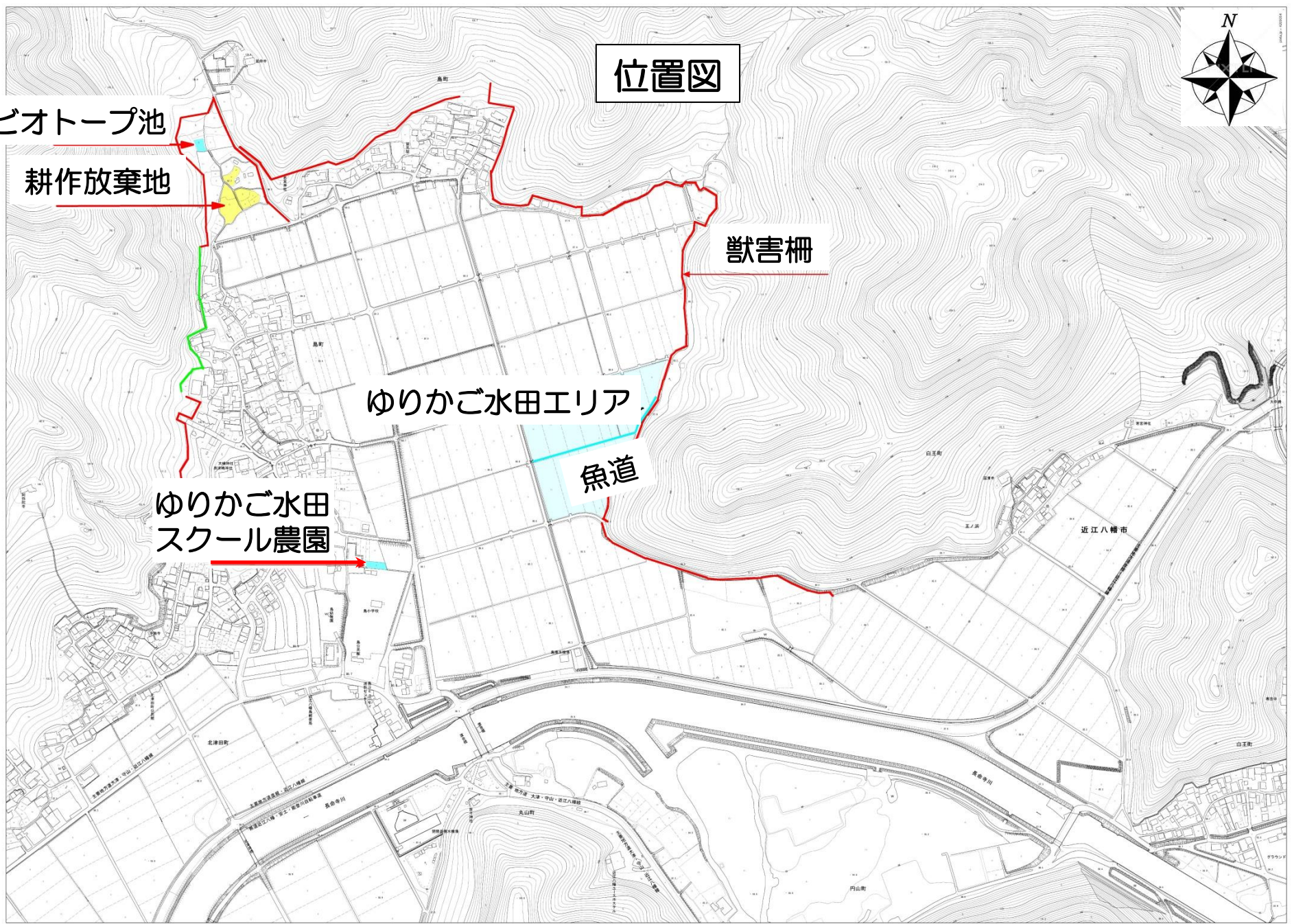
耕作放棄地

獣害柵

ゆりかご水田エリア

魚道

ゆりかご水田
スクール農園



経過

- 平成19年度から始まった「農地・水・環境保全向上対策事業」に、当町は「箱庭の里 奥嶋の集い」という名称で組織を立ち上げ。
- 農業従事者の高齢化、遊休農地の増加に伴い、本来生産の場である農地を健全な状態で保てなくなっていることは、生産性の低下だけでなく、地域全体の環境保全面でもいろいろな弊害を生み出している。また、環境問題に対しては、その地域だけでなく周辺地域、共有している資産（琵琶湖や長命寺川など）を一体として、多方面から同じ方向性に基づいて活動することが必須になってきている。
- 当町の北山田、東山田と呼ぶ地域は圃場整備から外れ、耕作条件が悪く、結果としてその殆どが遊休地化していた。

土地改良事業実施前の棚田航空写真



現在の棚田の耕作状況



活動内容

- 平成20年度に魚道の工事を行い、平成21年度から魚道を堰き上げ、魚のゆりかご水田の取組みを実施。
- 近隣の小学5年生の農業体験学習の場として、平成21年度からスクール農園を活用したゆりかご水田と魚道観察の取組みを行っている。
- 滋賀県固有種で湿害に強いと言われている「ミズクグリ」という品種の大豆の栽培に取り組む。
- 北山田の耕作放棄地は棚田を形成しており、自然が残されたその一帯では希少な生き物も生息していることから、棚田を活かした米作りと、地域住民を対象とした生き物観察に、子供と大人が一緒になって取り組む。
- 当町で収穫された米と大豆を使った味噌作りにも取り組み、今年で4年目。リピーターも増え、作り方も各家の味の出し方があり、安心安全な材料を使った味噌作りに取り組んでいる。

箱庭の里 奥嶋の集い

項目	説明内容	備考
活動場所	滋賀県近江八幡市島町	
対象農用地面積	全体 38.76ha (田:38.76ha)	
対象施設	水路 11km、農道 2.7km	
交付金額	農地維持支払 85万円、資源向上支払(共同) 70万円 資源向上支払(長寿命化) 151万円	H29実績
活動開始年度	平成19年度～	
組織の構成員	農業者・・・11名(個人+農事組合法人) 非農業者・・・自治会、老人クラブ、婦人会、子ども会、土地改良区、JA、島町自警団	
主な活動内容	農地維持活動	畦畔・農地法面・水路・農道法面の草刈り等 推進活動としては、地域住民、土地持ち非農家等を含めた体制づくり、活動の実施など今後の農業展開について農業者による検討会を開催している。
	資源向上(共同活動)	畦畔・溝畔の再構築、水田からの排水管理(水守当番)、水質モニタリング(透視度調査)の実施・記録管理、生きもの調査、生物多様性保全に配慮した施設の適正管理(魚道の設置)、施設等の定期的な巡回点検・清掃(ごみ拾い)、啓発・普及(地域住民との交流、学校教育等との連携)
	資源向上(長寿命化)	排水路の老朽箇所 [○] の補修ならびに魚道、水生生物のスロープ設置

箱庭の里構想(素案)

～自然・遊び・農業・林業を
一体的に五感で楽しめる癒し空間～

- ★棚田に残された貴重な生態・風景資源を
保全・再生する
- ★地元に住む者が地元の自然のすばらしさを
再発見し、存分に堪能する
- ★地域の農林業振興に寄与しつつ、外貨も
獲得し、持続可能な運営形態を確立する
- ★自然の中で遊びまわることで、心象風景
としてのエコロジーマインドを身につけ
た子どもを育てる

登山ルート・遊歩道の整備・下草管理・清掃
案内板・ベンチなどの設置
奥山の混合林化をすすめ、イノシシが
里に降りずに共生できる環境づくり

来訪客・登山客の情報交流拠点
郷土料理・軽食・飲み物の提供
(〇〇おばあちゃんの漬物、
〇〇おじいちゃんの手巻き寿司等)
そば打ち・石釜ピザ焼き体験
山野草のてんぷら(菜種油で)
隠れた登山スポットの紹介資料
里山ガイド(フォレストレンジャー)

間伐体験
枝打ち体験
チェーンソーアート
手づくりアスレチック遊具
(ターザンロープなど)
樹上回廊づくり
樹上ハウスづくり

森の体験
ゾーン

休憩所

駐車場

竹林
整備

間伐体験
竹細工体験
獣害防護柵づくり

魚類、水生昆虫&植物などの
多様な生息環境を再生・保全
ため池、わさび畑、
レンコン畑、不耕起田 など

雑木林
体験
ゾーン

果樹園

市民農園

おじいちゃんに教わる野菜づくり
かがしづくり など

間伐体験
薪割り体験
しいたけ栽培
昆虫採集
自然観察会

栗、柿、梅、
梨、ぶどう、
いちじく、
びわ、ゆず、
羊の放牧
など

景観ブランド
作物実験農地

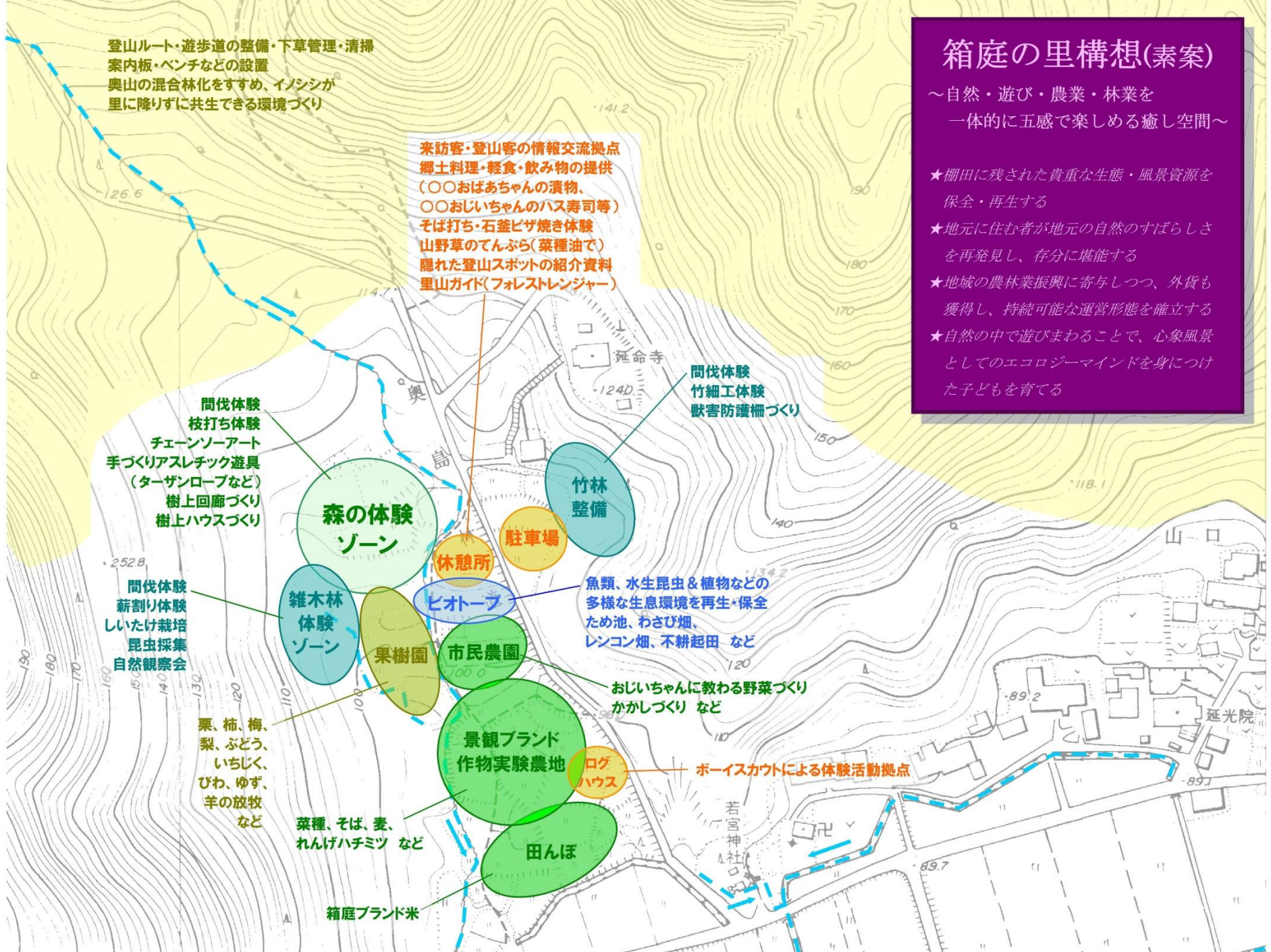
ログ
ハウス

ボーイスカウトによる体験活動拠点

菜種、そば、麦、
れんげハチミツ など

田んぼ

箱庭ブランド米



魚道設置作業 (H2O施工)



水田でのナマズの交尾



平成27年度小学校児童とのゆりかご水田

H22～取組



魚道で小学校5年生児童と生き物観察



生物多様性パイロット事業での水路構造検討



ビオトープ池（平成25年造成）



ビオトープ池での生き物観察



町内の住民を対象とした排水路の生き物観察会



生物多样性水路完成写真





耕作放棄地再生田植え体験



町内の住民と昔ながらの稲刈りとはさ掛け



足踏み脱穀機を使った体験



耕作放棄地で収穫した米と大豆(ミズクグリ) を使った味噌作り



まとめ（景観形成と調査結果）

- 30年前、この地域の景観として見られた石積み棚田の農地は雑草が生い茂り、見る影も無く荒廃した状況であった。山を水源として豊富に得られた良質の水は過去には飲料水として使用され、その小川には多くの水生生物が人や田と共存していた。一次産業が主であった昭和40年頃のあたり前であったこのような現状を踏まえ、北山田が価値のある場所で、再生可能な状況であるかを確かめるため、平成29年に、北山田上部の中央を流れている小川とその周辺や町内全域の調査を水生生物の専門家に依頼した。
- 北山田地域は植林による樹木の生育が順調に進み、水量は豊富で、少し水流が緩やかなところでは希少種に挙げられている生物が確認できた。他にも沢蟹やドジョウなども簡単に捕獲できた。また、ほ場整備区域でもメダカやヤゴ、ドジョウ、どんこといったたくさんの水生生物も見られ、生息に適していることも確認できた。
- 平成26年に県営事業生物多様性パイロット事業で生き物に配慮した水路の整備とビオトープ池を造成して頂き、生き物調査を継続中。

まとめ（価値ある資産のこれから）

- あくまでも農業ができる環境を整え、生物の繁殖に適した場所（ビオトープ）を提供することで、そこにいる生物と共存することを目的として、この地域を活動の拠点とし、町内をフィールドとして活動することとした。
- 調査は水生生物の専門家に依頼したが、同様のことは昆虫や陸生生物にも当てはまることが考えられる。棚田として残っている北山田は、景観や生産性以外では今も30年前の姿をとどめている島町の宝物として位置づけ、継続して生き物観察を実施し、保存していきたい。
- 「多面的機能支払交付金」の主旨を理解し、失いかけている豊かな自然環境を維持していくことは、ここに住まう私たちの使命であり、責任であると思う。この事業で描くビジョンを達成するため、住民が同じ思いを持って取り組むことで、他にない新しいコミュニティの形が出来上がることを期待している。

• ご清聴ありがとうございました。



復活した伝統の松明

毎年4月第3土、日に開催される春季例大祭の宵宮で奉納される松明。

特徴は、芯が空洞になっており、煙突と同じ構造となっていること。

松明を少し倒して空洞部に火を入れ、建て直し、一番上から炎が出れば成功。

地元ではこの松明を
「ほんがら松明」
と呼んでいます。